

模索していた、というのが実態であったようである。

そこで、県下の有志の主導によって結成が呼び掛けられ、誕生したのが、茨城県市町村史編さん連絡協議会である。

こうして当連絡協議会は、相互交流や情報交換を行なうことによって、編さん事業の相互発展をはかることを目的に、1983年11月に発足した。現在、県下92市町村のうち43の市町村が加盟している。

協議会は、会報「うばら」の発行（年1回、全7号）をはじめ、会員の相互研修と情報交換、交流を目的とした研究会や講演会をそれぞれ年1回開催するなど、地道な活動を継続的に行なっている。

ところで近年、編さん事業の終了、または終了間近のところが増えてきており、編さん事業の過程で収集した史料をどのように保存し、活用をはかっていくかは緊急の課題となっている。前々から、会の名称や会則の変更問題などが論議されており、今後編さん事業終了後の問題を射程に入れた改編、いうならば地域史料保存利用協議団体への脱皮がはかられることであろう。

高橋 実・茨城県立歴史館

茨城県市町村史編さん 連絡協議会について

茨城県において、1960年代の後半から市町村史の編さん事業がさかんになってきた。しかし、その事業に従事する職員の大半は、歴史的な知識が豊かといえず、また資料調査の方法、あるいは編集業務の遂行などさまざまな面で困難な問題をかかえて、それぞれ暗中